

地域における科学的知見の還元の現状と今後について

1. 知床世界自然遺産地域科学委員会地元説明会の開催

平成 20 年度

科学委員会における活動の説明および科学委員会委員と地域住民との意見交換の機会を設けることを目的として開催した。大泰司委員長、桜井座長、中村座長、梶座長に参加してもらい、WG の活動紹介と意見交換を行った。斜里町知床博物館、羅臼町公民館で開催し、それぞれ約 80 名、約 70 名の参加を得た。

平成 21 年度

科学委員会の活動紹介のみならず、委員が行っている調査研究の成果の還元も目的として開催した。斜里町知床博物館では梶座長よりエゾシカの増加とそれに伴う植生への影響について、羅臼町公民館では服部委員より南部オホーツク海、サロマ湖、知床におけるアイスアルジーについて、それぞれご報告いただいた。斜里町では約 50 名、羅臼町では約 40 名の参加を得た。

平成 22 年度

科学委員会における活動紹介を目的として、行政機関職員により、これまでの取り組みの成果と今後について報告することを目的として開催した。エゾシカの保護管理、ヒグマの保護管理方針の作成などについて報告を行った。知床世界遺産センター、羅臼ビジターセンターにて開催し、それぞれ約 30 名ずつの参加を得た。

2. 課題

- ・地元説明会等にご参加いただけるのは関係者や特定の方が中心であり、参加者数も年々減少傾向にある。
- ・科学委員会委員などの専門家による講義のみでは、地元の方に興味関心を持っていただくことが難しくなっていると思われる。
- ・特に若い世代の参加者が少ない印象がある。
- ・より効率的な広報の手法についても検討する必要がある。

3. 今後の取組について

科学的知見の地域への還元は、地域との連携・協働による遺産地域の保全管理を推進する観点から重要である。以下の点について、ご意見、ご提案をお願いしたい。

- ・効果的な科学的知見の地域への還元方法（実施時期、内容）
- ・地元関係団体等との連携による普及啓発等の実施
- ・効果的な広報手法